

令和6年度 自己評価・施設関係者評価表

幼保連携型認定こども園 若宮こども園

1. 本園の教育・保育目標

丈夫な体・豊かな心

- ☆ 自然の中で生き生きと、目を輝かせて遊び、健康な体づくりと良好な友だち関係を築く。
- ☆ 温かく家庭的な雰囲気の中で教育・保育し、情緒の安定を図ると共に一人ひとりの個性や意欲を伸ばす。

2. 本年度に取り組む重点事項

- ☆ 子どもが主体的に取り組めるような行事にしていく。
- ☆ 各クラスのおもちゃの設定の仕方なども整えていく。
- ☆ 0歳児、1歳児、2歳児は育児担当制で丁寧な関わりをしていく。
- ☆ 3歳児、4歳児、5歳児は主体的な教育・保育につながるようにしていく。
- ☆ 保護者支援として、保護者からの困りごと等を聞き安心して子育てできる様にしていく。

3. 評価項目の達成及び取り組み内容

	評価項目	園評価	施設関係者評価
1	若宮こども園全体の雰囲気は明るく活気がありますか。	A	A
2	若宮こども園の教育活動について共感できますか。	A	A
3	若宮こども園の教育・保育目標を理解し、保護者・来園者に分かりやすく説明できますか。	A	B
4	若宮こども園では、子ども達が主体的に活動していますか。	A	A
5	子育て支援事業は、充実していますか。	B	A
6	遊具、玩具、手作りおもちゃ、絵本等が整備されていますか。	A	A

7	園内や園庭の清掃などの環境整備が行き届いていますか。	A	A
8	園児は楽しく園生活を送っていますか。	A	A
9	園児は、行事に生き生きと取り組んでいますか。	A	A
10	保育教諭は、地域の方に対して社会人として常識ある言動で接していますか。	A	A
11	こども園と地域との連携が取れていますか。	B	A
12	子どもたちが安全に生活できるよう、安全・安心・防災・防犯に対する取り組みを十分に行っていますか。	A	A

★評価につきましては、A・B・Cでお願いします。

A・・・達成されている

B・・・取り組んでいるがまだ不十分

C・・・全くできていない

4. 総合的なご意見

【自治会長】

・園の周りには田園が広がり、季節の移り変わりが子どもさん達の心の発達にとっても良い環境となっております。併せて先生方も優しく愛情をこめて接しておられることから子どもさん達は健やかに成長されていると思われまます。今後とも地域との触れ合いの機会を維持して参ります。

【保護者】

・畑などで野菜を育てたり、食育で色々なお話をしてくれたりと家庭では出来ない体験を提供してくれる事はとてもありがたい。先生方もクラス関係なく優しい声掛けをしてくれるので子どものコミュニケーション能力があがりました。行事に関して園、保護者ともに負担にならない範囲で時代にそったものが増えるといいと思います。

・園での生活、活動を楽しみに毎日登園しています。食育に力を入れているので、調理、味、栄養等にも興味をもち、家庭でも食に関心を持つようになりました。明るく元気に成長するよう、見守り導いた保育をしてくださっています。

・園では子ども達が明るく生き生きと活動している印象です。防災訓練等もこまめに行い防災にたいしての取り組みも十分に行われています。

【保育施設関係者】

・未満児の育児担当制は子どもの思いを尊重しながら保育出来ていると思う。

・職員も子どもも明るく、園全体の雰囲気も良いのでこれからも良い園になるように努めたい。

・子どもの主体性を大切にするための環境(職員の関わり方や保育の流れ)が整っている。

・保護者との良好な関係、信頼関係が築き上げていけるような努力をしていきたい。

・安全に対する声掛け、防災、防犯の訓練はすぐに行動に移せるように取り組みを行っているが十分かどうか分からない所もある。

・地域との関りが取りにくい時代になっている。

・玩具や遊びの環境が少しずつ充実してきている。

・一時預かり、親子ひろばなど地域向けの子育て支援は充実しているが、在園児向けの子育て支援の取り組みには課題がある。

【園長】

・玩具などは十分でないところもあるが、環境は子ども達が過ごしやすくなってきたと思う。教育・保育活動では子どもの主体性を重視してきた。行事などは、特に以上児は子ども達と話し合ったりして、内容を決め補足部分は保育教諭が助言したりして計画をたてている。コロナ禍から地域の方との触れ合いが出来なかったが、今年度は敬老会に参加したりもちつきなどで触れ合う機会ができた。コロナ禍から行事の見直しがあったことで、保護者からの御意見がありましたが、意見も大切にしながら理解もして頂く様にしてきた。

・コロナ禍から保護者の送迎時の出入りを玄関のみになっていましたが、園の環境子ども達の様子も見て頂けるように、令和7年度からは送迎の仕方を見直していきます。

《 保育者の自己評価をまとめたの所感 》

個人評価をすることで自分の保育の振り返りをすることができ、改めて気持ちを新たに出来た。どの職員も不適切保育についてかなり意識をしたり、悩んだり、関わり方への不安が感じられた。子どもの最善の利益を考えて保育していることを誇りに思い、今のまま自信を持って行ってほしいと感じた。

全体的に子どもが主体的に活動ができるように環境を整えたり、声を掛けたり配慮しているが、主体性を育む保育の難しさや、環境を整えていくにはどうしたら良いかを悩んでいる保育者も多いので、もっと話し合いながら進めていく必要があると思う。

配慮を必要とする子どもの保育や保護者対応に関しては難しいと感じる職員が多かった。配慮を必要な子には専門の先生に対応などアドバイスをいただいたり、保護者対応は年々難しく保育者が1番大変な部分になってきているので園全体で考えていかなければならないと思う。

職員同士の関わりは良好だと思うので、これからもコミュニケーションを大事に、話しやすい、相談しやすい雰囲気づくりをしていきたい。